

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開および委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	平成23年度第1回スポーツ振興審議会
開催日時	平成23年4月12日(火) 15時00分～16時45分
開催場所	高松市役所 11階 113会議室
議 題	スポーツ指導者の充実・活用および資質向上について
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	野崎会長，城門副会長，長谷川副会長，穴吹委員，七條委員，松本委員，山下委員
傍 聴 者	0 人 (定員 5 人)
担当課および 連絡先	スポーツ振興課 839-2626

会議経過および会議結果

【会議の経過】

- (1) 開会
- (2) 野崎会長あいさつ
- (3) 事務局から会議成立の報告の後，会議の公開について委員会に諮り，審議した結果，公開とすることを決定した。
- (4) 議案の「スポーツ指導者の充実・活用および資質向上について」を栗田課長から説明。
- (5) 報告事項の「高松市スポーツ振興基本計画の実施状況について」を栗田課長から説明

委員から意見を聴取した。

項目ごとの主な意見，質疑等は次のとおり。

議 題

議 案

スポーツ指導者の充実・活用および資質向上について

会議経過および会議結果

○スポーツリーダーバンクの見直しについて

【A 委員】

前回の審議会では、事務局から他都市の調査結果や遍歴などの資料をいただき、スポーツリーダーバンク制度については、廃止、もしくは廃止もしかたない、という意見でまとまっていたと思う。本日も、事務局の資料を基に、委員の皆さんの意見をいただきたいと思う。

まず、スポーツ振興課ホームページの改善についてだが、イベント、観光部門の整理はどうなるのか。

【事務局】

今回は指導者についての改善なので、イベント、観光部門はまだ考えていない。

【A 委員】

リーダーバンクの利用者が少なく、高松市民と制度がうまく繋がっていない。ただ廃止するだけではなく、高松市民のスポーツ振興に寄与するような対応策を考えていきたい。

【B 委員】

高松市ホームページ改善案では、くらしの情報の中に「スポーツ指導者の紹介」があるが、「担当ページ」の見出の下にも「スポーツ指導者の紹介」があり、内容が重複しているのではないかと。

【事務局】

御指摘のとおりであり、内容が重複しないように検討する。

【A 委員】

他に御意見がないようでしたら、廃止もしくは廃止も仕方がないという方向でよいか。

【委員】

はい。

【A 委員】

リーダーバンク制度については廃止し、仕組みをリニューアルすることとする。

スポーツ指導者の充実・活用および資質向上について高松市長より本審議会に諮問を受けているが、その答申に向けての文案として「スポーツリーダーバンクの見直しについて」をスポーツリーダーバンクの審議結果としてよいか。

【委員】

はい。

○市民スポーツカレッジの見直しについて

【A 委員】

私も、市民スポーツカレッジの講師をしたことがあるのだが、その体験から言うと、体育指導委員が参加者の大半を占め、体育指導委員の参加があって成り立っているという側面もあった。

市民スポーツカレッジは「若手の指導者の育成」という役割があるが、うまく機能しているのだろうか。また、資料の中には、「関係団体との連携の中で、指導者の資質向上を目的とした講座の導入をするといった指導者養成システムを変更する。」と書かれているが、委員さんの率直な意見を聞かせていただきたい。

会議経過および会議結果

【C 委員】

体育指導委員は、市民スポーツカレッジを受けなければならないのか。

【B 委員】

市民スポーツカレッジは、平成8年から始まった事業で、当初は、体育指導委員だけではなく、他にもいろいろな人が受講していたが、資質向上のため、平成12年ごろから体育指導委員も多く受講するようになった。平成20年以前は、体育指導委員の継続のための必須単位であったが、現在は継続のための必須単位ではなくなった。平成14、15年の一般参加が多い理由は、参加者に事業団の職員もいたからではないだろうか。一般参加者で最後まで受講して修了証をもらった人は、第1期生以外では、いないのではないのか。

【D 委員】

一般の人が参加しない理由は、資格を生かす場所がないのと、それ以上に、資格のグレードが低いからではないか。香川県のように日本体育協会公認のスポーツリーダーが取れるような講習会にできないか。

【事務局】

市民スポーツカレッジが、資格認定のための一部としてカウントしてもらえればいいが、県の研修会のように、定められたカリキュラム・時間数の講習会をしないと日本体育協会の資格としては認定されない。

もし、市民スポーツカレッジでもスポーツリーダー資格を習得できるとしたら、スポーツリーダーが習得可能なスポーツ少年団認定員や香川県の指導者養成講座と同じ内容のものをすることになる。

【E 委員】

一般の方とは、どのような人を指しているのか。また、市民スポーツカレッジは、どのような人に受講してもらいたいのか。

【事務局】

市民スポーツカレッジの目的にあるように、指導者の養成なので、指導者になりたい人である。

【E 委員】

競技団体に入るような人は、市民スポーツカレッジを受講しなくても、知り合いに聞いて資格の取り方などを教えてもらえる。広報たかまつで市民スポーツカレッジの記事を見ても、「指導者になれます。」という記載もないため、「指導者になれる。」と思う人は少ないと思う。スポーツカレッジとは別事業だが、過去にスポーツ医学の先生を呼んで講習会を開いたことがある。その時には100人くらいの参加者があったが、県や市で講習会を開いてくれるようになってから中止した。市民スポーツカレッジは、どのような方が受講されているのか。

【事務局】

基本的には、指導者になりたい人だと思う。具体的なデータは持っていないが、スポーツ少年団の指導者で、競技以外で、医学的などころなどに興味を持った方などが参加されていると思う。

会議経過および会議結果

【E 委員】

テーピングやスポーツ医学については、1時間の講義だけでは限界がある。更に深い知識を得るためには、5回くらいの講義が必要である。

【A 委員】

講座の目的や、ニーズを考える必要がある。スポーツ少年団の指導者とも交流があるが、チームが強くなると、指導に熱が入り、肘や膝に怪我をさせてしまうこともある。そういう経験を持つ指導者が多ければ、子どもに怪我をさせないような講座をシリーズのものでやってみるのも必要なのかとも思う。

大学では、教育現場を始め、工学部や医学部でも、フィールドに根ざした学問体系や教育の仕組みを作り直しなさい、と言われているが、スポーツカレッジという名称では、大学教育を地域社会に下ろしていこうという考え方が、地域のニーズや現状とうまく合わないところもあると思う。18、19年度の「～学」という講座は、現場とは離れ、抽象的で、学問として成り立っているものである。学術的な体系の講座だけではなく、現場に即した講座を開講した方がよい。そのような中で、指導者の資質向上を目指すような講座の内容はどのようなものがよいか。

【B 委員】

カレッジを受講した体育指導委員の中でも、資格を活かしているのはほんの一部で、大半の受講者は資格を活かしきれていない。スポーツリーダーバンクは廃止されるので、今後は「するするドットネット」になるが、指導者の肩書きとして、「～年度市民スポーツカレッジ修了」といった記載ができれば、少しは変わってくるのかもしれない。体育指導委員の必須の単位にするなど、高松市独自のシステムを作り、取得した資格を活かせるような制度にしないといけない。香川県の指導者養成講座は、高松市体育指導委員の事業と日程が重なる時があるので、いい内容だとは思いますが、受講を勧めていない。市民スポーツカレッジを受講することにより、日本体育協会のスポーツリーダーの一部が免除されるようになれば、カレッジの資格が活かされるのではないか。

【D 委員】

そのようになれば、スポーツカレッジのグレードを上げることになり、資格を取りに来る人も増えると思う。

【C 委員】

日本体育協会がスポーツリーダーの資格を勧めだしたのは平成10年ごろだったと思うが、今の若い指導者が、資格を取ることが本当に望んでいるのだろうか。

スポーツ少年団では、登録時に認定員の資格を持った指導者が必要なため、ニーズがある。スポーツ少年団の認定員の予算は、行政刷新会議の仕分けにより減らされたが、スポーツ少年団の認定員の研修に、一般の参加も認める、というやり方もあると思う。

【B 委員】

資格に対するニーズがあるかどうかは、年齢にもよると思う。市民スポーツカレッジを受講する人は年配の方が多いので、コミュニティスポーツの需要が多いと思う。市民スポーツカレッジでコミュニティスポーツの資格を取ってもらい、市民スポーツフェスティバルやトリムの祭典などの行事に参加してもらうのも一つのやり方だと思う。競技関係者でスポーツリーダーの資格を取りたい人は他の講座を受講すると思うので、市民スポーツカレッジは、ハードルを下げて、年配の方を対象としたコミュニティスポーツの資格を取れるようなものにすればいいと思う。

また、スポーツカレッジのネーミングが重く、市民スポーツカレッジは、高松市独自のやり方で開講する方がよい。

【E 委員】

市民スポーツカレッジは、受講すると「指導者にならなくてはいけない」というような感じを受ける。スポーツ少年団の父兄などで、「指導者になりたい」とは思わないが、スポーツに関する情報を「学びたい」と思っている人は、多いと思う。

【F 委員】

チームにトレーナーとして赴くことがあるが、監督やコーチよりも、選手にとって大切なのは、家庭である。母親が朝食を取らせたり、試合当日の弁当の内容を考えたりする等の役割は、非常に重要である。試合当日のメニューや、コンビニでご飯を買う時にはどのようなメニューを選べばいいのかといった栄養学の知識やテーピングやストレッチなどの知識を、少しでも母親が持っていれば、子どもの環境も非常に良くなる。母親に役割を与え、意識レベルを高める講習会にすれば間口も広がるのではないか。

また、母親のみならず、おじいちゃん、おばあちゃんも対象にすればよい。

また、昔は「良いこと」として教わった内容も、いまでは間違いであった、ということもあるが、いまだに昔の間違った指導が行われていることも多い。父兄が指導者に指摘する時に、知識がないと、単なるクレマーになってしまうが、知識があつたうえで指摘すると、状況も変わってくる。

県でも指導者育成しているが、優秀な指導者ほど県外に出てってしまう。高松市の講習会で、父兄やおじいちゃん、おばあちゃんといった市に根付いている人を対象とした講習会を開いてくれれば意義がある。

【A 委員】

カレッジのプログラムの内容が現状とどのように繋がっているか、また、指導者がどのようなニーズでどのようなことを学びたいのか、という意見があつた。

また、指導者養成のためだけではなく、お母さんのための、運動をしたい人のための、運動を続けたい人のための講習をすればよいのではないか、という意見もあつた。

また、資格との繋がりについての意見もあり、そのなかでも、体育指導委員や、スポーツ少年団の資格との繋がりや、取得した資格を、なんらかの形で活かされる形を示していく、という意見もあつた。

会議経過および会議結果

【G 委員】

指導者が、資格をどのように活かしていくかということをお先に考えてしまうと難しい。夜間開故事業で、運動をされているお父さん、お母さんを多く見受けるが、そういった人を対象とするメニューをつくり、習得した資格は、自分たちで活かして行くようになればよいと思う。市民スポーツカレッジが体育指導委員の資格を取るための講座になると、「受けにいてください」と頼みにくくもなる。間口を広げ、自分たちのためになるといった堅苦しくない講座が望まれる。

【A 委員】

スポーツ少年団の父兄が、子どものために受講してみたら、スポーツ少年団のお世話することが楽しくなり、ひいては、地区のお世話をするのが楽しくなる、といった方向に向かえばよい。

【F 委員】

高齢者の方向にも広がればよい。医療費の削減にも繋がる。講義の内容も、ゲーム方式を取り入れたりするなど、堅苦しくなく、分かりやすいものがよい。老人が倒れたり、子どもがやけどした時には救急法を知っていればすぐに役立つし、そのような講座であれば、ワンコインくらいの受講料をいただいても良いのではないかと。受講料を支払うことで、参加者の意識も高くなる。

【B 委員】

老人の転倒防止や、子どものスポーツなど、身近で自分のために役に立つカレッジならば間口が広がるし、受講料をとっても良いと思う。「指導者の養成」という文言を変えてもいいと思う。

【E 委員】

カレッジを受講した人は、結果的には指導者になっていくと思う。指導者になろうと思って受講する人よりも、「受講して楽しかったし、自分が役に立ったことだから人にも教えたい。」という人のほうが、5年後、10年後には指導者になっていると思う。

【F 委員】

このような内容の講座だったら、率先して受けに行きたいと思う。すべてを受講しないといけないのではなく、興味を持った講座だけ受講できるシステムでも良いと思う。

【B 委員】

市民スポーツカレッジを受講した人の中で、興味を持った人が日本体育協会の資格を取りに行くような、スポーツ指導者の予備軍を作るような制度になればいいと思う。

【A 委員】

最初から指導者になるために資格を取ろう、という大看板を掲げるのではなく、いつの間にか指導者になっていた、という筋書きがつけられるかもしれない。

本日の意見をお伺いする中で、新たに視野が広がったという思いがある。本日の内容を事務局に整備していただき、また次回、審議を続けたいと思う。

会議経過および会議結果

報告事項

高松市スポーツ振興基本計画の実施状況について
質疑なし